



国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所

2022年4月15日

国連世界観光機関 (UNWTO) 世界観光指標 (World Tourism Barometer) 2022年3月号について

本報道発表の原文（英語）は、下記リンクにてご覧いただけます。

世界観光指標原文（英語）は、下記リンクにて抄録（無償）

及び全文（有償）をご覧いただけます。 <https://www.e-unwto.org/>

観光セクターは 2022 年に堅調なスタートを切ったが、新たな不確実性に直面している

2022年3月25日

マドリッド

国際観光は 2022 年 1 月に入っても回復を続け、2021 年初頭の低調なスタートをはるかに上回る実績となった。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻は、依然として新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関連する観光目的の渡航に対する制限(以下「渡航制限」という。)と共に、既存の経済的な不確実性に圧力を加えている。全体的な信頼感に影響を受け、観光回復の妨げになる可能性がある。

最新のデータによると、**2022 年 1 月の国際観光客到着数は前年比で 2 倍以上 (+130%) になった**。今年 1 月で世界の観光客到着数は 1800 万人増加し、2021 年全体の増加数と同じになった。

World Tourism Organization (UNWTO) Regional Support Office for Asia and the Pacific
- A Specialized Agency of the United Nations

Silkia Nara 2F, Sanjo-honmachi, Nara, 630-8122, Japan Tel: +81(742)30-3880 Fax: +81(742)30-3883 Email: info@unwto-ap.org

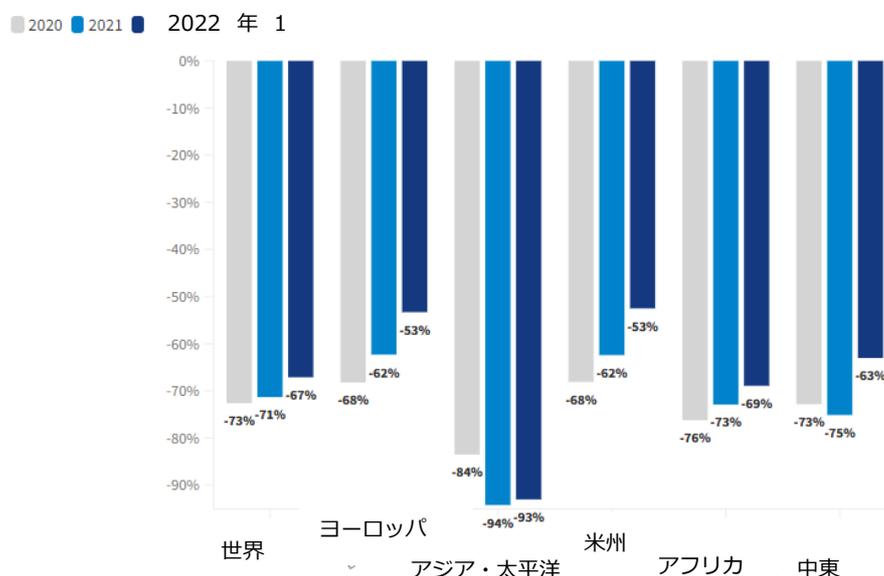
これらのデータにより、**昨年には既に増加傾向があったことが確認される一方で**、1月の回復速度はオミクロン株の出現及び一部の国・地域で渡航制限が再導入されたことにより影響を受けた。2022年1月の国際観光客到着数は、2021年の71%減少に続き、依然としてCOVID-19前の水準より67%低かった。

ヨーロッパ及び米州が最も堅調

すべての地域において、2021年初頭は低水準の記録だったが、**2022年1月に大幅な回復**を見せた。ヨーロッパ(+199%)及び米州(+97%)は引き続き最も堅調であったが、国際観光客到着数は依然としてCOVID-19前の水準の約半分(それぞれ-53%及び-52%)であった。

中東(+89%)及びアフリカ(+51%)も又、2022年1月に前年比で増加となったが、2019年比でそれぞれ63%減と69%減となった。アジア・太平洋は前年比で44%増となった一方で、一部の国・地域では依然として不要の渡航を禁止したため、結果として国際観光客到着数は2019年比で最大の減少(-93%)となった。

国際観光客到着数(2019年比伸び率%)



Source: World Tourism Organization (UNWTO) ©. * Change over 2019 (provisional data)
Data as collected by UNWTO, March 2022. Published: 25/03/2022

準地域毎に見てみると、西ヨーロッパが最高の実績を記録し、2022年1月には前年比で4倍となったが、2019年比では58%減となっている。加えて、カリブ海(-38%)及び南・地中海ヨーロッパ(-41%)では2019年の水準に向けて最も早い回復率を示した。実に、カリブ海とアジア・太平洋の一部の島嶼国及びヨーロッパと中央アメリカの一部の小規模な国・地域では、2019年比で最高の実績となった。セイシェル(-27%)、ブルガリア及びキュラソー(共に-20%)、エルサルバドル(-19%)、セルビア及びモルディブ(共に-13%)、ドミニカ共和国(-11%)、アルバニア(-7%)、アンドラ(-3%)という実績だった。ボスニア・ヘルツェゴビナ(+2%)はCOVID-19前の水準を超えた。主要な旅行先の中では、トルコとメキシコが2019年比でそれぞれ16%減と24%減となった。

回復の見込み

国際観光は2020年及び2021年の未曾有の低迷の後、**2022年に徐々に回復**し続ける見込みである。3月24日時点で12の国・地域がCOVID-19関連の制限を設けておらず、益々多くの国・地域が渡航制限を緩和又は解除しつつあり、繰延需要の解放に寄与している。

ウクライナでの戦争は、世界経済に新たな課題をもたらし、世界的な渡航への信頼回復を阻害するリスクを引き起こしている。アメリカとアジアのソースマーケット（送客市場）は国境を開き始めているが、従来からリスクを嫌う傾向があるため、特にヨーロッパへの渡航に関して影響を受ける可能性がある。

ウクライナとロシアの空域閉鎖及び多くのヨーロッパ諸国によるロシア航空機の乗り入れ禁止は、ヨーロッパ域内の渡航に影響を及ぼしている。又、ヨーロッパと東アジア間の長距離フライトの迂回を引き起こし、フライトの長距離化と費用の増加を招いている。2020年の国際観光支出に占める、ロシアとウクライナの割合は合わせて3%であり、紛争が長期化すれば、140億米ドルの国際観光収入の損失となる可能性がある。両市場は近隣諸国のみならず、太陽と海が主要な観光資源であるヨーロッパの国・地域にとっても重要である。又、モルディブ、セイシェル、スリランカ等の長距離移動の必要な国・地域にとって、ロシア市場はパンデミックにおいて重要な比重を

占めた。ロシア及びウクライナは、ヨーロッパの国際観光客到着数の4%を占めていたが、2020年にはヨーロッパの国際観光収入のたった1%を占めたに過ぎない。

経済の不確実性と圧力

影響を評価するのは時期尚早だが、様々な方法での航空券の検索や予約は、侵攻が始まった翌週に減少を見せたものの、3月初旬に回復に転じた。

この侵攻が、既に厳しい経済状況に更なる圧力を加えることは明らかであり、消費者の信頼感を低下させ、投資の不確実性を高めている。経済協力開発機構(OECD)は、今年の世界経済の成長は前回の予測より1%以上、下がる可能性があり、年初に既に高かったインフレ率が、少なくとも更に2.5%上昇する可能性があると推定している。最近の原油価格の高騰(原油銘柄のひとつであるブレント原油は10年ぶりに最高値に到達)やインフレ率の向上により、宿泊施設と交通機関の価格が上昇し、各企業、消費者の購買力及び貯蓄に更なる圧力がかかっていると、UNWTOは指摘している。

この予測は、国際連合貿易開発会議(UNCTAD)による世界経済の回復と成長に対する紛争の潜在的影響に関する分析とも一致しており、2022年の世界経済の成長率の予測を3.6%から2.6%へと下方修正し、開発途上国が経済の減速の影響を最も受けやすいという警鐘を鳴らした。

関連リンク:

- [世界観光指標 | Vol. 20 • 第2版 • 2022年3月抜粋](#)



- [UNWTO 観光データダッシュボード](#)



○ **UNWTO World Tourism Barometer (UNWTO 世界観光指標「バロメーター」)** とは

UNWTO 世界観光指標（「バロメーター」）は最新の世界の観光動向を示す統計指標で、UNWTO 本部から、年 6 回を目処に公表されます。国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所では、本部の公表にあわせてタイムリーに情報提供しています。

○ **国連世界観光機関（UNWTO）について**

UNWTO は、1975年1月に観光に関する国際機関として設立され、2003年に国連の専門機関に移行した観光に関する国際機関です。観光の地位・競争力の向上、持続可能な観光の推進、観光を通じた貧困削減や開発の推進等を支援しています。

国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所は、UNWTO の地域事務所として、1995年に設立されました。同事務所ではアジア太平洋地域の交流促進を図り、観光を通じた経済発展や国際相互理解の増進を図るために、国際会議、セミナー、シンポジウムの開催や調査研究業務を行っています。

● お問い合わせ先(UNWTO 本部; メディア専用窓口)

E-mail: comm@unwto.org

Tel: (+34) 91 567 8100

※メディアの方は本部へ直接、英語でお問合せください。

お問い合わせ方法につきご質問がある方は

UNWTO 駐日事務所までご連絡をください。

○ 一般のお問合せ先

国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所

（一般財団法人アジア太平洋観光交流センター）

担当：吉田

電話：0742-30-3880

E-mail: info@unwto-ap.org